

[ホーム](#) > [茨城を知る](#) > [刊行物・統計データ](#) > [いばらき統計情報ネットワーク](#) > [いばらき統計情報ネットワーク（統計課）](#) > [統計の基礎知識](#) > [なぜなに統計](#) > [なぜなに統計](#) Q.統計グラフの表し方は？

いいね！ { 0 }

ツイート 更新日:2015年4月1日

なぜなに統計 Q.統計グラフの表し方は？

A.統計グラフは「統計データが示す意味」を分かりやすく伝えるための有効な手段で、形式もいろいろあります。

具体的な形式は以下のとおりです。

棒グラフ【ぼうぐらふ】

基線から出発をした同幅の棒の長短、高低によって、数量感の差や火、また、大小の順序などを観察するのが目的のグラフである（例えば、都道府県の人口）。

棒グラフの種類

- (1) 単純比較棒グラフ
- (2) 時系列棒グラフ
- (3) 内訳棒グラフ

帯グラフ【おびぐらふ】

長方形の全面積（長さを含む）を100%にして、分割された内訳面積の広さを比較することによって、百分比の構成比を観察する、百分比グラフの一種。

帯グラフの種類

- (1) 階段型帯グラフ
- (2) 分流型帯グラフ
- (3) 縦横百分比グラフ
- (4) 分離型帯グラフ
- (5) スライド型帯グラフ

円グラフ【えんぐらふ】

全円を100%にして、その内訳面積の広さを比較することによって、百分比の構成比を観察する、百分比グラフの一種。

折れ線グラフ【おれせんぐらふ】

多くは時系列表（例えば、月別降水量や年別米の収穫量）を観察する場合に用いられるグラフで、形態は時系列棒グラフの棒頭中央を線で結び、棒を取り除いたものと思えばよい。その折れ線の傾斜を観察することによって、時間的変動の特徴を明らかにするグラフである。目盛りには算術目盛り（変動差）が多く見られるが、対数目盛り（変動率）が使われることもある。

折れ線グラフの種類

- (1) 普通目盛りの線グラフ
- (2) 円形目盛りの線グラフ
- (3) 階段型線グラフ
- (4) 平面線グラフ
- (5) 内訳線グラフ
- (6) 立体内訳線グラフ

[ページの先頭に戻る](#)

このページに関するお問い合わせ

企画部統計課普及情報
茨城県水戸市笠原町978番6
電話番号：029-301-2637
FAX番号：029-301-2669

